

【成果を出す組織を作るマネジメント】シリーズ

デジタル発想が事業の可能性をも変える？

強い組織、強い現場を作るための、やさしい現代マネジメント！

【身近なデジタル・データ活用】

業務の効率化のために、新たなシステムを作るなら、それは大きな投資になりますし、作成のために必要となる開発業務や、それを使うのに慣れるための時間の必要性まで考えると、むしろ『重過ぎる』と感じるのが自然かも知れません。

しかし、今既にある仕組みを使って、文書やデータをパソコンが読める形（デジタル）で共有する方法に集中するなら、少し様子が変わります。

【たとえば日報でも…】

たとえば、現場担当者の日報でも、報告項目を確定したメールを管理者に送信する形なら、どこにいても日報を提出することが可能になります。

しかも、日報を受け取る管理者が、そのメールを、たとえばOutlook内の“担当者別フォルダー”に保管して行くなら、別途ファイリングの必要もなくなるわけです。

【トップまでの報告も迅速化する】

更に、重要な報告に関しては、社長や関係者にその日報メールを転送することをルール化すれば、社長への情報の流れが迅速になります。

【デジタル発想に立つと見える可能性】

そして、一旦そんな“デジタル的な発想”をすると、日報業務ばかりではなく、事業の新たな可能性まで見え始めると指摘する経営者もおられるのです。デジタル化には、社内業務ばかりではなく、社外の関係先との“繋がり”を深くかつ迅速化する“働き”もあるからです。

【先行きの人員不足に光明が差す？】

その経営者は、そんな方向性を捉えるなら、先行きの人員不足も、そんなに恐れる必要はないと思えて来るとも言われます。通信を駆使して、社内人員のみならず、社外の様々な先との“協力関係が作りやすくなる”からなのだそうです。

協力関係ができるなら、社内人員を増やす必要性も小さくなるかも知れません。

【マネジメント・レポートを差し上げます！】

そこで、その経営者が、そうした発想に至った経緯を事例化し、その要点をまとめたマネジメント・レポートをご用意しました。詳しくは、レポートでご確認ください。有料定期購読希望をお知らせ頂ければ、pdfで送ります。



先行きの人員不足は、社内の担当者を通じて必要な情報を集め、それに基づいて経営者や業務責任者が指示を出し、その指示を受けた担当者が遂行するという“伝統的なスタイル”を前提にするから、生まれてしまう懸念ではないかと指摘する経営者がおられます。

しかも“伝聞情報”は、報告者の見識やセンスに内容が左右されることもあり、内容確認に時間が掛かることもあります。人員不足問題は、結果として、そんな経営課題に1つの“道筋”を暗示しているのかも知れません。

中堅中小企業の皆様に、現代的な“人”マネジメントの視点から、重要なニュースやノウハウをお届けする月例『経営さぶりめんとニュース』に、ご意見やご感想をお寄せください！

行政書士・社会保険労務士へんみ事務所  
行政書士・特定社会保険労務士 邊見 努

TEL : 022-292-2351  
FAX : 022-292-2352